加古川シネマクラブニュース Vol.104　2019.09.04

9月例会は「ユダヤ人を救った動物園」

11 月 14 日に 17 周年記念特別例会「モリのいる場所」を予定

例会のお知らせ

■名称／第 104 回例会『ユダヤ人を救った動物園』

■日時／9 月 18 日(水)

①PM 1:50ー、②PM 4:10ー、③PM 6:30ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／ユダヤ人を救った動物園

ーアントニーナが愛した命ー

■監督／ニキ･カーロ

■出演／ジェシカ･チャステイン、ダニエル･ブリュール、ヨハン･ヘルデンベルグ、マイケル･マケルハットン

■データ／2017 年、チェコ･イギリス･アメリカ、127 分

■ジャンル／ドラマ（戦争・伝記）

■ストーリー／1939 年、ポーランド･ワルシャワ。ヤンとアントニーナ夫妻は、当時ヨーロッパ最大の規模を誇るワルシャワ動物園を営んでいた。アントニーナの日課は、毎朝、園内を自転車で巡り動物たちに声をかけること。時には動物たちのお産を手伝うほど、献身的な愛を注いでいた。

しかしその年の秋、ドイツがポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発。

動物園の存続も危うくなる中、アントニーナはヒトラー直属の動物学者・ヘックから「あなたの動物を一緒に救おう」という言葉と共に、希少動物を預かりたいと申し出を受ける。寄り添うような言葉に心を許したアントニーナだったが、ヤンはその不可解な提案に不信感を募らせていた。

ヤンの予感はまさに的中し、数日後、立場を一転したヘックは「上官の命令だ」という理由をつけて、園内の動物たちを撃ち殺すなど残虐な行為に出る。

一方でユダヤ人の多くは次々とゲットー(ユダヤ人強制居住区）へ連行されていく。その状況を見かねた夫のヤンはアントニーナに「この動物園を隠れ家にする」という驚くべき提案をする。

ヤンの作戦は、動物園をドイツ兵の食料となる豚を飼育する「養豚場」として機能させ、その餌となる生ごみをゲットーからトラックで運ぶ際に、ユダヤ人たちを紛れ込ますというものだった。人も動物も、生きとし生けるものへ深い愛情を注ぐアントニーナはすぐさまその言葉を受け入れた。連れ出された彼らは、動物園の地下の檻に匿われ、温かい食事に癒され、身を隠すことが出来た。しかし、ドイツ兵は園内に常に駐在しているため、いつ命が狙われてもおかしくない。アントニーナの弾くピアノの音色が「隠れて」「静かに」といった合図となり、一瞬たりとも油断は許されなかった。

さらにヤンが地下活動で家を不在にすることが続き、アントニーナの不安は日々大きく募る。それでも、ひとり”隠れ家“を守り抜き、ひるむことなく果敢に立ち向かっていくのだが。　　(作品ホームページから)

11 月特別例会の告知

11 月の例会は、2017 年に没後 40 年を迎え、再び注目を集める伝説の画家・**熊谷守一**(モリ)とその妻・秀子の晩年の暮らしぶりを**山崎努**と**樹木希林**の共演で描いた**『モリのいる場所』**です。

一般の方も有料で入場できる特別例会として開催いたしますので、お誘い合わせの上、ご来場いただきますようご案内いたします。

■作品／第 105 回例会(特別例会)

『モリのいる場所』(2018 年、日本、99 分、ドラマ)

監督／沖田修一

出演／山崎努、樹木希林、加瀬亮、吉村界人ほか

■日時／11 月 14 日(木) 10:30～、14:00～、18:30～

■場所／加古川総合文化センター 大会議室

■非会員の観覧料金は調整中、別途チラシ及びホームページ等で告知します。

全国映連映画大学 in 福岡に参加して

映画大学 in 福岡(7/13～15)に参加してきました。加古川シネマクラブからの参加は私ひとりだったのですが、お隣の明石シネマクラブからは3名参加で、旅のお供があったおかげで方向音痴の私ですが、無事に会場の西南学院大学キャンパスに到着しました。今年の映画大学、お休みが取れたら参加しようと思ってはいたのですが、正直に言えば、何となく乗り気がしませんでした。私の中で特にときめく講師がいなかった事もありましたが、何よりも運営委員の岡本さんが亡くなって初めての映画大学で、いないことがつらかったからです。

しかし、3日間参加すると、やはり知らないことを知る喜びというか、どの講師陣もそれぞれに面白かったし、勉強になりました。印象に残った講師を紹介します。まず映像研究家の**叶精二**さん、**高畑勲監督**のアニメーション技術について**「アルプスの少女ハイジ」**などの映像を使ってわかりやすい解説で、いかに高畑勲監督が素晴らしい功績を残したかを力説されていて、その技術をもっと聞きたいぐらいでした。弁護士の**椋大樹**さんは、今は弁護士の仕事はそっちのけで、呼ばれればどこへでもかけつけ、講演活動を精力的におなさっています。今こそ、意外と知らない「日本国憲法」の条文について、権力者が守るべき条文など解かりやすく解説し、時間が足りない足りないと熱弁を奮っておられました。**『檻の中のライオン』**、子供向けには**『けんぽう絵本おりとライオン』**の著書が評判です。

最終日、現地スタッフの司会者が、この度距離を置いていたサークル活動に戻ってきたのは、偶然ネットで岡本さんの神戸新聞記事「余命―ある映画人の生と死」を読み、「～一人でできることはしれている。人はつながって生きている」が心に響いたからですと壇上で話されました。私は胸が熱くなりました。　　(せん)

前回例会の報告

7月26日の例会は、自閉症、ダウン症、低身長症、LGBTといった「違い」を抱えた子どもを持つ6組の親子の姿が紹介した**アンドリュー・ソロモン**原作のドキュメンタリー**『いろとりどりの親子』**を鑑賞しました。参加者からは「ドキュメンタリーだが、構成がとてもよかった。」などの感想が寄せられました。

参加会員97人、明石シネマクラブからの参加者7人で合計104人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『妻の愛、娘の時』(2017年、中国・台湾、121分)

■解説／それぞれが信じる家族への想い。三世代にわたり紡がれる真の”愛“の物語。

『恋人たちの食卓』など数々の香港・台湾映画に出演してきた名女優**シルビア・チャン**が監督・主演を務め、父の墓をめぐる3世代の女性それぞれの思いを、切実かつユーモラスに描いたヒューマンドラマ。母の死を看取った娘は、母を父と同じ墓に埋葬するため、田舎にある父の墓を移そうとする。しかし父の最初の妻から猛反対され、大きな波紋を巻き起こしていく。**『青い凧』**などで知られる巨匠**ティエン・チュアンチュアン**が、シルビア・チャン演じる主人公の夫役を好演。アジアを代表する名カメラマン、**リー・ピンビン**が撮影を手がけた。第12回アジア・フィルム・アワードでシルビア・チャンが主演女優賞＆生涯貢献賞をダブル受賞した。

■監督／シルヴィア・チャン

■出演／シルヴィア・チャン、ティエン・チュアンチュアンほか

■日時／10月17日(木)

①PM2:00ー、②PM4:30ー、③PM7:00ー

■場所／アスピア明石９階子午線ホール

（ＪＲ明石駅東徒歩５分）

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ　〒675-0101
加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方
TEL 090-9283-0435　FAX 078-935-8528
E-MAIL　cinemaclub@nifty.com
http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/

会員数 148 人(7 月 26 日現在)